

学校教育目標

心身ともにたくましく
自立した子どもの育成

こころ・学び・元気の花を
咲かせよう!

たかくら



学校だより 学力向上号
平成 26 年 10 月 31 日

北九州市立高蔵小学校
校長 有地 信一郎

全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 26 年 4 月 22 日に 6 年生を対象として「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施しました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせします。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一面にすぎません。本校では、他の教科等も含め、全職員で意思統一し学習規律の徹底を図り、総合的に児童の学力の向上を目指しています。保護者の皆様のご支援、ご協力をよろしく願います。

1. 教科に関する調査結果の概要

①学力調査結果の分析

A・・・知識・技能を中心とした問題

B・・・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力を中心とした問題

カテゴリ	本校の結果	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語 A	・全国平均を下回っている。	・全領域で全国平均を下回っているが、「読むこと」に関しては、ほぼ全国平均並である。 ・言語に関して、漢字や基礎的な語句の意味や理解に課題がある。
国語 B	・全国平均を下回っている。	・全国平均を下回っているが、昨年度より上昇していた。 ・言語に関する問題においては、正答率が全国平均を上回った。 ・無回答率が全国平均より高い問題が多く、自分の考えを「書く」ことに課題がある。
算数 A	・全国平均を下回っている。	・全国平均を下回っているが、ほぼ同程度であり、昨年度より上昇していた。 ・図形領域において正答率が高かった。 ・計算の順序についての理解に課題が見られる。
算数 B	・全国平均を下回っている。	・全国平均を下回っているが、昨年度より上昇していた。 ・全国平均と比べて無回答率が高い問題が多くあり、わからないと思った問題に対して、あきらめてしまう傾向が見られる。

②学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・国語科の授業において、自分の考えを書くようにしている児童が、全国平均と比較して低い。授業において「自分の考えを書く」時間を多くもち、その「理由」も書けるように段階的に指導していく。
- ・どの教科の授業においても、自分の考えが言葉、文章に表すことができるような手だてを工夫する。
- ・算数科において、難しいと感じる問題に対して諦めずに多様な方法を考える児童が全国平均と比較して少ない。また、公式やきまりのわけを理解している児童も少ない。授業では図や表を用いて問題を把握させ、多面的に考えることができるように指導し、児童相互の気付きを大切に学習を展開する。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

①家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・1 時間以上学習している児童の割合が改善傾向にあり、30 分以下の児童は大幅に減少している。
- ・本校においての目安となる時間「学年 × 10 分 + 10 分」を徹底する。
- ・家庭学習チャレンジハンドブックの有効活用を努める。
- ・一日 30 分の読書についても改善傾向にあるが、依然として全国平均を下回っている。
- ・週 1 回の読書タイムで、教師が本を紹介して読み聞かせたり、図書委員会を中心に読書を推進する活動を計画したりする。

②生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・自尊感情（自分によいところがあるとおもいますか）規範意識（学校のきまりを守っていますか）については全国平均を下回っている。
- ・学校のきまりを徹底していくとともに、「ほめて伸ばす」指導を家庭と連携し、積極的に行う。
- ・社会や地域への貢献についての意識が全国平均と比較して大きく下回っている。
- ・テレビ等の接触時間については、改善傾向にあるものの未だに 4 時間以上の児童が 32% あり、大きな課題となっている。

3. 結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

「◎」・・・現在取り組んでいること 「○」・・・今後取り組むこと 「・」・・・事例

①教科に関する取組

- ◎学力向上のための特設時間の実施
 - ・毎週火曜日の計算タイムや金曜日の音読タイム、新設の「さんさんタイム」（毎週水曜日掃除後の 15 分）で全校一斉に実施
 - ・さんさんタイムの内容について学力向上推進委員会、主題推進委員会が方向性を確認
 - ・小中連携サポーターを活用し学習プリント整備や活動の補助
- ◎過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・アシストシートや WE B 問題を計算タイムに行い、基礎基本の徹底を図る。
 - ・活用力を高めるワークや過去問題を日々の宿題や夏休み・冬休み・春休みの際として、計画的に位置づける。また、答え合わせの際に必ず解説を行う。
- ◎「既習事項」の活用
 - ・算数科の授業において、毎時間導入時に本時の学習に関わる復習タイムを設定し、フラッシュ教材等を利用して既習事項の確認を行う。
- 日々の授業における説明の習慣化
 - ・自分の考えを書く。一人でつぶやく。ペアで説明する。などの活動を各教科で取り入れるようにする。

②家庭生活習慣等に関する取組

- ◎宿題のスタンダード化（時間・学年別・教科別内容）
 - ・「家庭学習ハンドブック」を活用した自主学習を推進し、自学ノートを作成する。
 - ・「家庭学習のしおり」を作成し、学習時間、学習内容、学習方法について児童及び保護者への啓発を行う。
 - ・年 4 回の「3 つの花満開大作戦」の結果について分析し家庭学習についての実態を明らかにするとともに、それに応じた方策を保護者向けの手紙で周知する。
- ◎ひまわり学習塾との連携
 - ・週 2 回のひまわり学習塾参加児童に対して、担任と学習指導員が連携し、一人一人の学習習慣の定着度について共通理解する機会を設ける。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組を保護者へ周知
 - ・学校便り、学年便り、3 つの花満開大作戦の結果をお知らせ等で、結果の概要と今後の対策について周知する。

まず親がきちんと実行、社会のルール

○家庭での規則正しい生活が、学力向上に結びつきます。「早寝・早起き・朝ごはん」の励行をお願いします。

○遅刻・欠席の連絡は必ず 8：30 までお知らせください。